

連携とは、地道さと継続性

特定非営利活動法人スウィング 木ノ戸 昌幸さん



ごみ拾いの活動を通じて気付いた「地域との連携」についてお話しさせて頂きました！みなさんも、よければ是非ご参加してみてくださいね！（木ノ戸さん）

特定非営利活動法人スウィングは、なんだか狭～い「障害福祉」の殻をやぶり、障害のあるなしを超えた「一市民」として、世の中が今よりもほんのちょっとでも楽しいコトになればいいな…と願う「NPO」として、さまざまな活動を開催・発信されています。

今回は、ごみ拾いから始まった取組についてお話を伺ってきました。

■まず最初に、ごみ拾いを始められたきっかけを教えてください。

私たちが活動している中で感じていた、障害を持った人達の存在や取組が、やはり狭い世界でしか知られていないということが起点でした。もっと社会に彼らのことを伝えたい、けれどただ街を歩いていても意味がない。何か役割を持つてできることはないかと考え、ごみ拾いを思いついたんです。

そしてごみ拾いを通じて、私たちの「社会に対してできる仕事」が始まりました。



■活動を行う中で、どういった変化がありましたか？

ごみ拾いは、その特性上、誰にとっても良いことであったため、地域の方や行政の方からも応援をしてもらうことができました。どんな人にも喜んでもらえる活動として続けることができたんです。そうしていくうちに、近くの商店街の方々が行われている定期清掃活動でご一緒に活動する機会が生まれました。他に

も地域で開催されているお祭りに呼んで頂き、出店や劇をやったりしました。ごみ拾いという活動を通じて、私たちのことを知って頂いた方との関わりが生まれていきましたね。さらに、このごみ拾い活動は他地域にも広がっており、様々な団体や施設が取り組まれています。

■現在、具体的に取り組まれている活動などを教えてください。

岩倉にある「フリースクールわく星学校」さんとは、2006年より1~2ヶ月に1回、スポーツによる交流を行っています。北白川児童館さんとも、ワークショップや展覧会を通じて交流を実施してきました。さらに今年度からは、上賀茂児童館さんとの交流をスタートしていきます。



■こういった活動に関する事業資金はどうされていますか？

ほとんどが出ていくお金ばかりですので、現在は、民間の助成金の申請などを行っています。今後は、寄附のお願いなども増やしていく予定です。

■取組を行ううえで、良かった点や苦労された点などはありますか？

私たちのごみ拾いの活動は、私たち自身が必要と思い、楽しんで続けてきた活動でした。その大事にしていることに共感してもらい、声をかけてもらったり一緒にやろうと言ってもらえること。それが良かった点だと思います。連携するために何か新しいことを始めたり、私たちのことを知ってもらうためにあれもこれもやるのではなく、自分が楽しく取り組める内容でスタートしたことが良かったと思います。

ただ、苦労しているのは「継続」です。ごみ拾い自体は、とても始めやすいことだと思います。しかしながら、数回やったところで変化はありません。こうやって継続していくこと、またみんなが楽しんでもらえるように「娛樂性」を盛り込んでいくことが重要です。でも、これもまた「楽しみながら」できているので苦労とはいえないですね。

■最後に、他のNPO団体へのメッセージなどがあればお願ひします。

最近は「他団体と連携した方がいい」と聞くことが多く、しないといけない気になっていると思います。ただ、一度立ち止まって考えるべきだと感じています。連携はあくまで目的ではなく、手段ですので、自分たちが何を目的としてやっていくのかを見据えながら、その目的を実現するための活動を行っていくこと。その上で、連携をするパートナーが見つかることもあると思います。そのときに初めて相乗効果が生まれていくはずです。

ただ、その連携を生みやすくするためにも、自分たちが大事にしている理念や現在の活動状況を発信しておくことが必要です。私たちはブログやフェイスブックの更新も熱心に行ってます。そうやって「連携したい」と言ってもらえる機会を増やすことは必要ですね。

連携は、つくるのではなく生まれていくもの。そして地道さと継続性が必要となってくるものだと思うので、まずは団体が目指すことを描き、楽しみながらできる活動を始めることをおすすめします。

